

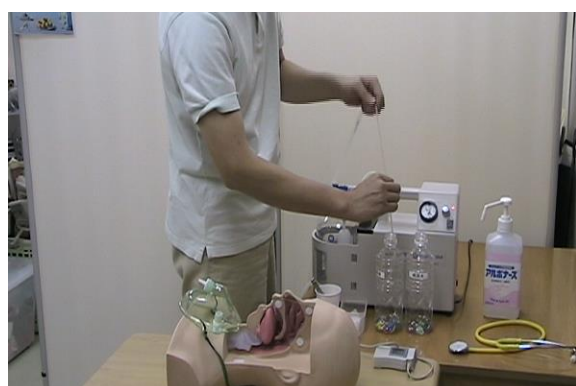
<p>気管吸引の手順 (Tracheal)</p> 	<p>目的：人工気道をつけた患者(利用者)から、気道内分泌物・貯留物を吸引する。</p> <p>対象：①異常な呼吸や荒い呼吸。②人工呼吸器管理中の最大吸気圧(peak inspiratory pressure, PIP)の上昇や 1 回換気量(tidal volume, VT)の減少。③有効な自発性の咳嗽がない。④明らかに分泌物が気道にある。⑤胃内容物や上気道の分泌物を誤嚥している可能性がある。</p>
<p>T-1 手指消毒</p> 	<p>滅菌手袋を使用する場合もある。</p> <p>未滅菌手袋の上から消毒する場合もある。</p>
<p>T-2 連結管取り出し</p> 	
<p>T-3 コネクタ接続</p> 	<p>連結管と吸引カテーテルのコネクタを接続する。</p> 

T-4 酒精綿を取る



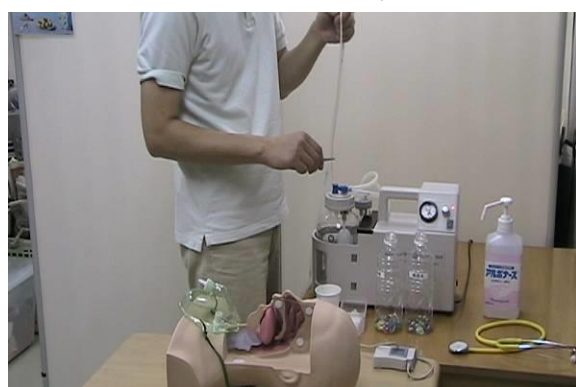
酒精綿を必要枚数（3～5枚）とり、容器を閉める。

T-5 消毒液拭き取り



吸引カテーテルの外側に付着した消毒液を酒精綿で拭き取る。

T-6 鑷子で吸引カテーテルを撮む



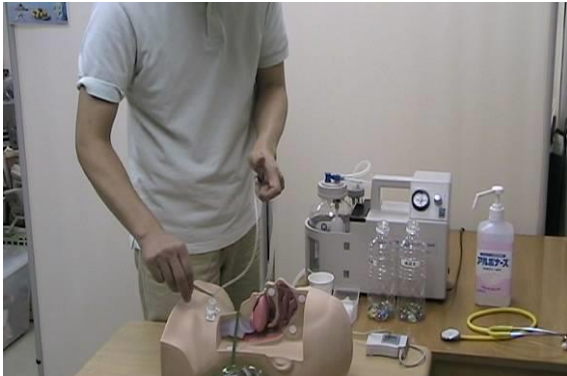
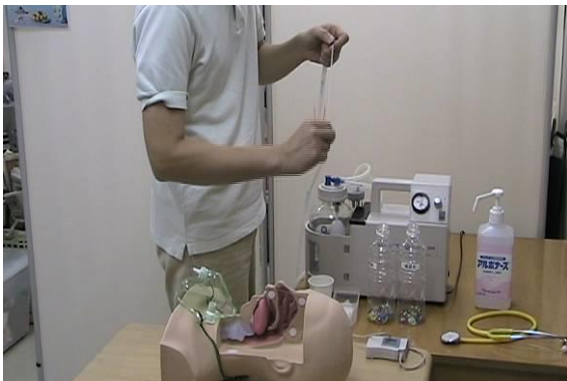
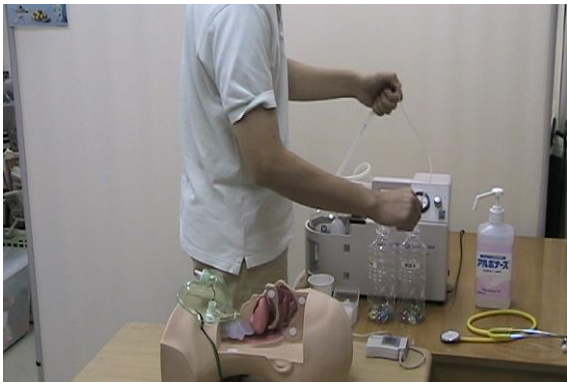

清潔な鑷子で、吸引カテーテルを摘む。

T-7 吸引器始動



吸引器始動。
（吸引カテーテルの先端が不潔になるため、手や物が触れないよう、清潔操作を心がける。）

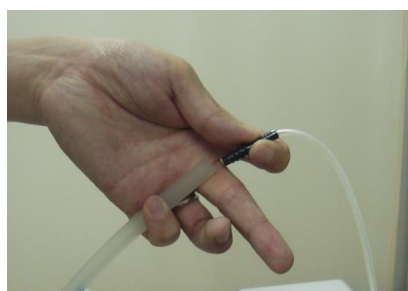
<p>T-8 滅菌水吸引 1</p> 	<p>① a.左手 (非利き手) の親指で吸引カテーテルを折り閉鎖する。 (b.調節孔タイプは開放)</p>   <p>② 滅菌水のボトルに吸引カテーテルを挿入。</p>
<p>T-9 滅菌水吸引 2</p> 	<p>① a.左手の親指を開放 (b.調節孔タイプは閉鎖)。</p>   <p>② 吸引カテーテル内の消毒液を滅菌水で洗い流す。</p>
<p>T-10 酸素マスク・人工鼻の取り外し</p> 	<p>吸引カテーテルが不潔にならないよう注意。 (カテーテルを空中に開放したり、カテーテルを摘んだままの鑷子を、左手に持ち替える方法もある。)</p>
<p>T-11 気管吸引 1</p> 	<p>① 左手の親指で吸引カテーテルを閉鎖。 (b.調節孔タイプは開放)</p> <p>② 気管カニューレ長+1~2cm程度まで挿入。</p> <p>(気管カニューレから溢れている分泌物は、最後に吸引する。)</p>

<p>T-12 気管吸引 2</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① a.左手の親指を開放 (b.調節孔タイプは閉鎖) ② 鑷子を持ち替えるかトレー等に置き、カテーテルを指で回転させながら引き抜く。 ③ 酸素飽和度を確認しながら、10～15秒以内を目安に吸引する。 (挿入・抜去ともに持続的に吸引する方法もある。粘膜損傷リスク?)
<p>T-13 分泌物拭き取り</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① 酸素マスクを戻す。 ② カテーテルを空中に開放。 (鑷子は手に持ったまま。あるいは酒精綿やトレーなどの上に置く。) ② 新しい酒精綿で分泌物を拭き取る。
<p>T-14 滅菌水吸引 1</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① a.左手の親指で吸引カテーテルを閉鎖。 (b.調節孔タイプは開放) ② 滅菌水のボトルに吸引カテーテルを挿入。 (吸引カテーテルの先端がボトルの口に触れないように注意。)
<p>T-15 滅菌水吸引 2</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① a.左手の親指を開放 (b.調節孔タイプは閉鎖) ② 吸引カテーテル・連結管内を洗浄。 ③ 必要に応じて、吸引操作をくり返す。

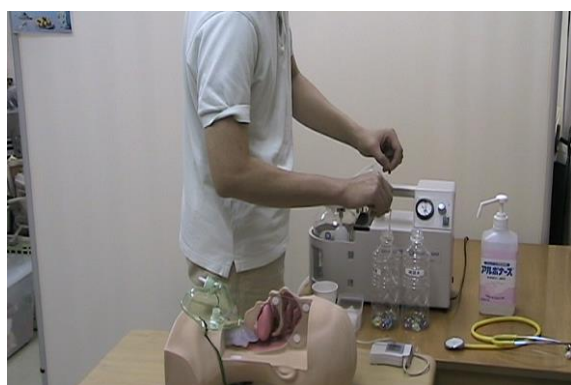
T-16 コネクタ取り外し



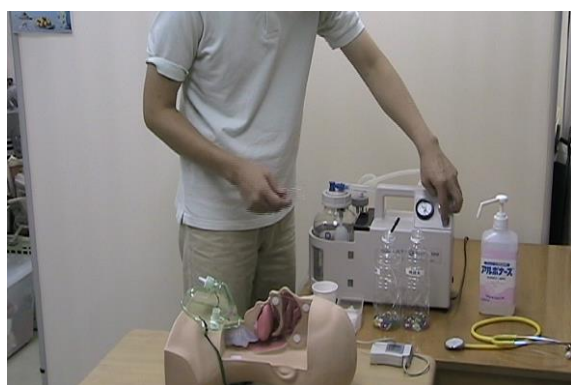
片手で取り外す。



T-17 消毒液浸漬



T-18 吸引器停止



停止する前に、患者（利用者）の呼吸音が改善されているか、分泌物が除去されたかなど、状態をよく観察する。

T-19 手指消毒



